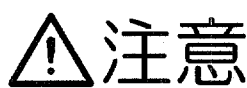
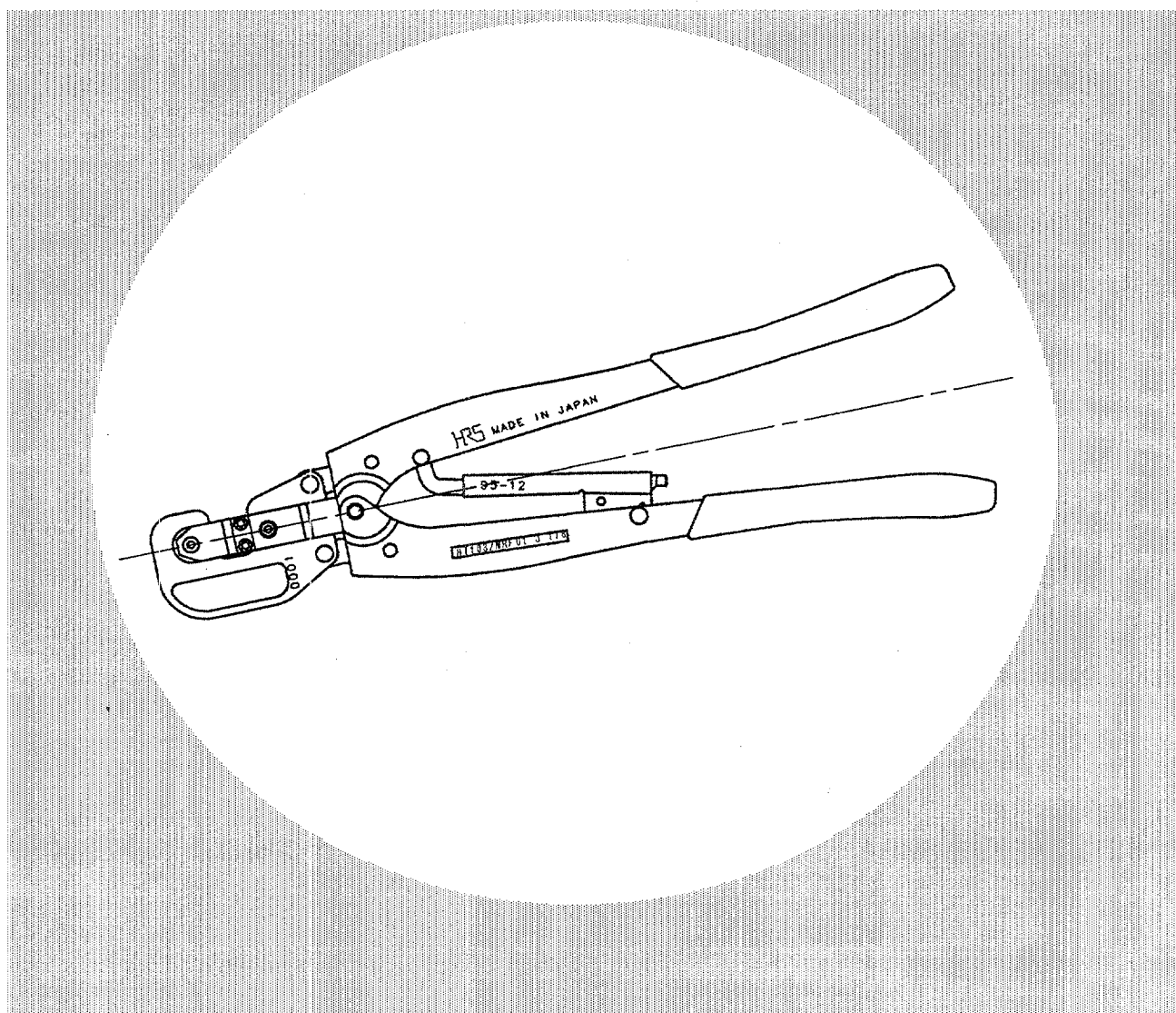
手動圧着工具

HT103/MRF01－J－178

取扱説明書

⚠注意	安全に使用していただくために使用前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。また、いつでもすぐに読めるように、この取扱説明書を保管してください。

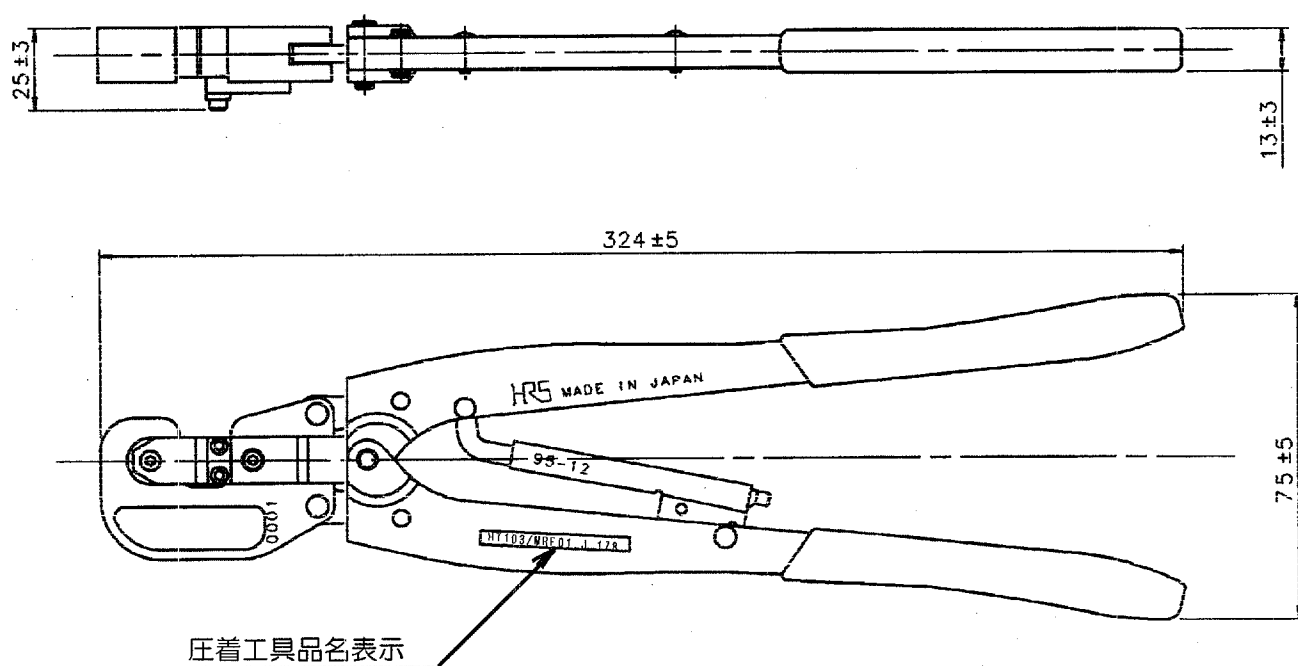
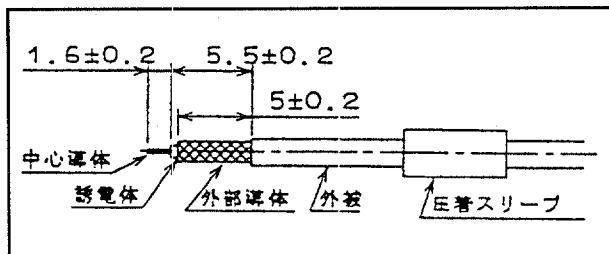
ヒロセ電機株式会社

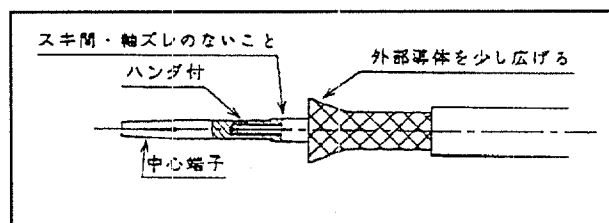
目　次

1. 型式

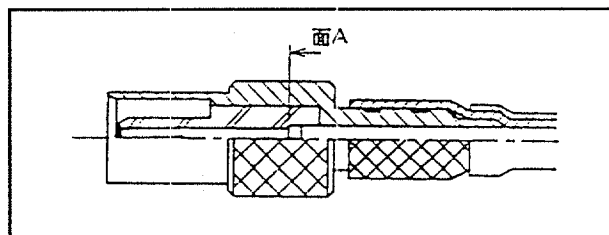
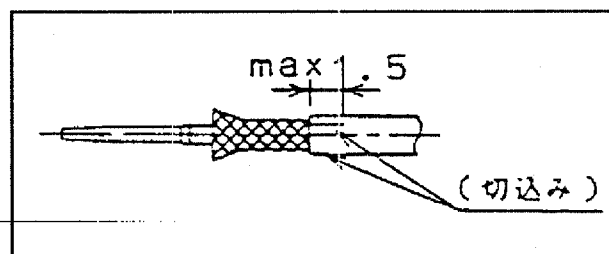
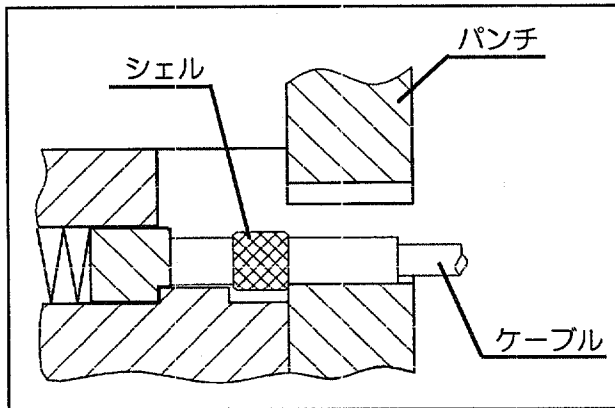
製　品　番　号	HRS No.
HT103/MRF01−J−178	CL350−0128−5

2. 仕様

項　　目	仕　　様
適合コネクタ	MRF01−J−178（CL313−1102−7）
適合ケーブル	RG−178B/U，RG−196A/U（フジクラ電線）
機能	外部導体の圧着

3. 各部の名称

4. 作業手順

①予め定寸切断したケーブルに圧着スリーブを通し、ケーブルを左図の寸法で端末処理して下さい。

⚠注意	①外被，誘電体の切除の際、外部導体，中心導体にキズが入らない様に注意して下さい。また、キズの入ったものを使用すると、不良となりますので使用しないで下さい。 ②誘電体の切断面は、平坦にカットして下さい。切断時に引張りによる伸びが無い様に注意して下さい。 切断面が、平坦でないものや、伸びたものは、不良となりますので使用しないでください。

②中心端子と中心導体をを半田付けして下さい。
③半田付けをした後、外部導体を少し広げて下さい。

⚠注意	①中心端子と誘電体との間に隙間、軸ズレが無い様に半田付けして下さい。隙間、軸ズレがあるものは、不良となりますので使用しないで下さい。 ②半田が端子外径面にあふれない様に注意して下さい。端子外形面に半田があふれたものは、不良となりますので使用しないでください。

④左図の通り、半田付けした中心端子をシェルに挿入して下さい。この時、中心端子がシェルのA面と一致するまでしっかりと、挿入して下さい。挿入しずらい時は、外被端面より縦方向に『ｍａｘ１．５mm』の切り込みを２ヶ所（正対称）に入れて下さい。

	中心端子がシェルのA面と一致していないものは、不良となりますので、使用しないで下さい。 切り込みが1．5mmをこえる物は、不良品となりますので、使用しないで下さい。

⑤圧着スリーブをシェルに突き当たるまで戻して下さい。
⑥『⑤』まで組み立てたシェルを左図の様に圧着工具のコネクタホルダにセットして下さい。
⑦ラチェットが解除するまで、ハンドルを握って下さい。
⑧ハンドルを開いて、圧着したコネクタを引き出して下さい。
⑨品質確認を行なって下さい。詳細は、『5．品質確認』を参照ください。
⑩電気検査を行なって下さい。詳細は、『5．品質確認』を参照ください。

5．品質確認

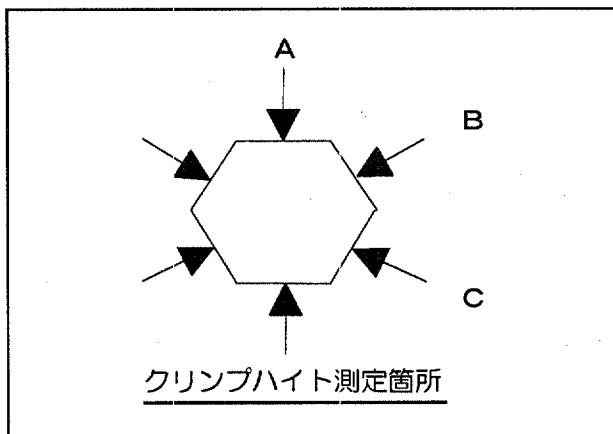
クリンプハイト測定箇所

■クリンプハイトの確認
左図に示すA～Cの３ヶ所をマイクロメータにより測定して下さい。３ヶ所とも、下記クリンプハイト値を満足するかを確認して下さい。

クリンプハイト値	2.69～2.79

■引張り強度
本コネクタの引張り強度の規格は下記の通りです。

引張強度	29.4N 以上

■外観検査
キズ、変形がないことを確認してください。

■電気検査
導通、瞬断、耐圧検査を行ってください。

項　目	試　験　方　法	規　　格
接触抵抗	１０mAで測定して下さい	中心コンタクト：３mΩ以下 外部コンタクト：２mΩ以下
絶縁抵抗	DC５００Vで測定して下さい	５０００MΩ以上
耐電圧	AC５００Vの電圧で１分間印加して下さい	せん絡、絶縁破壊の無い事
瞬断	周波数１０～２０００Hz、振幅　１．５２mm	100ｎｓ以上の電気的瞬断が無い事

6．お取扱上の注意事項

①圧着工具をたたいたり、高い所から落とす等の衝撃は、絶対加えないで下さい。
②本取扱説明書に記載の適合コネクタ、適合ケーブル以外の物を絶対に圧着しないでください。
③ラチェットが解除する前にハンドルを開くことはできません。無理に開くと故障しますので、絶対にしないでください。
④工具に不具合が生じた時は、解体などせずそのままの状態で不具合内容を明示の上、弊社へお申しつけ下さい。

7．日常のお手入れ

①作業が終了しましたら、汚れ、異物等を柔らかい布で拭き取り、ハンドルを閉じ圧着パンチの中にホコリが入り込まない様にして、乾燥した場所に保管して下さい。
②ハンドルの開閉の際、圧着パンチがカジリ等なく滑らかに摺動することを確認して下さい。

取扱説明書番号	
TAD-P4527	
発行年月	1997年　3月
改定年月	年　月
版　　数	初　版

注意

（1）本書の一部または全部を無断転載する事は固くお断り致します。
（2）本書の内容について、将来予告なしに変更することがあります。
（3）本書の内容につきましては、万全を期して作成致しましたが、万一ご不審な点や誤り、記載洩れなど、お気付きの点がございましたら各支店、営業所までご連絡ください。
（4）当社では、本製品の運用を理由とする損失、逸失利益などの請求につきましては、（3）項にかかわらず責任を負い兼ねますのでご了承ください。
（5）本製品がお客様により不適切に使用されたり、本書の内容に従わずに取り扱われたり、またはヒロセ電機株式会社以外の第三者により修理、変更された事などに起因して生じた損害などにつきましては、責任を負い兼ねますのでご了承ください。
（6）海外においては、本製品の保守、修理対応をしておりませんのでご了承ください。

ヒロセ電機株式会社

本　　社　〒141 東京都品川区大崎5丁目5番23号

本製品に関するお問い合せは、当社生産技術部迄ご連絡下さい。
生産技術部　〒222 神奈川県横浜市港北区菊名7丁目3番13号
TEL. 045 (402) 7725 FAX. 045 (432) 6681

97・3 Printed in Japan